

# 巻頭言

## 飛行機という夢のなかで

企画担当理事 吉武正樹（福岡教育大学英語教育講座）

私は今、上空1万メートルにいます。東京への弾丸日帰り出張を終え、北九州へ帰る飛行機の中、この原稿を書いています。2014年に仙台で開催された東北支部研究大会の際、発言する内容を構想したのも機内でした。学術局かつコミュニケーション教育研究会のメンバーだった私はその日の午後に組まれたコミュニケーション教育のパネルにおいて、研究会として年次大会で重ねてきた議論も含め、何か総括する提言をしたいと考えていました。

ちょうど岡山上空に差し掛かったころでした。突然脳内のシナプスが化学反応を起こし、エルサ（映画『アナと雪の女王』）の力で見える見るうちに現れ、高く聳え立った氷の城のように、私の意識に何かが始まる感覚を覚えました。それまで点在していただけのアイデアの種たちが線となり、面そして立体となってきました。荒削りでしたが、パネルではその思考の連鎖を頼りに発言し、それを原案に執筆したのが、『日本コミュニケーション研究』44巻1号（2015）に収められている「コミュニケーション教育研究の次元を開く—教室と社会をむすぶ発達の最近接領域—」という論文です。正直、岡山から羽田に降り立つまでのことは覚えていませんが、無時間というか、「別の世界に飛んで行った」というか、時空の縛りから解放されたような不思議な感覚でした。

最近では昨年末、東京行きの早朝便の中、理事会で配布する資料を作成しました。といっても、Walmartで買った黄色いノートを1枚破り、安い20本パックの青ボールペンで手書きした粗雑な資料です。しかも、書いているうちについ余計な絵を加えたり（小さな飛行機と「今ここ」のセリフ!）、枠線に強弱や影をつけたりと、不要なデザインまで足してしまいました…。思えば私たちはいつの間に、パソコンで資料を作成することを「当然」とするようになったのでしょうか。子どものころはワクワクした気持ちで漫画やイラスト、学級新聞など手書きしたものですが。

オクラホマ大学の恩師エリック・クレマー先生の教えに、次のようなものがあります。人間は、しまっておいた物を捨てるように過去の経験を失う、ということはない。常に他の経験と融合しつつ刷新し続ける、人間とはそのような時間的存在なのだ、と。もしかしたら、機内で筆を走らせたのは私の手に残る若き日の感覚かもしれません。また、飛行機は目的地を目指して前進するだけでなく、空中に漂う間、「ドラえもん」に登場する時間を止める「タンマウォッチ」だったり、時間を遡る「タイムマシン」にもなるようです。

機内で私に起きたこうした「思考の覚醒」や「身体記憶の想起」、「時間の歪み」は、単なる偶然だったのか。そんな疑問が浮かびます。私にはそれらの出来事が、現実から距離を取り、物事を俯瞰する視点の「比喩」のように感じます。修士のとき言語学者ジョージ・レイコフ先生の授業を受講したことがありますが、メタファーと認識の関係に関する氏の深い分析を考えると、そんな直感もあながち間違いではないのでは。

あらゆる事象をベタな現実と捉えず、「意味」に還元して考えるコミュニケーション学者にとって「研究」もコミュニケーション行為ですが、私たちは対象を観察し、意味の生成の現場に鋭く切り込みつつも、地を這う虫のような「近眼」であってはいけません。エドワード・ホール先生は『文化を超えて (Beyond Culture)』

の中で、人間のことを自らの諸機能を延長する生物として描いています。人間には翼はありませんが、空を見上げ、自由に飛び回る鳥たちに自身の視点を重ねつつ、「いつしか私も大空を自由に飛び回りたい」という「夢」を持っていました。その夢の延長が「飛行機」です。飛行機でしばし地上を離れることと、物事を俯瞰することとは、実はそんな形で繋がっており、機内で得た鳥瞰的視点により、脳中心主義や直線的時間意識という現代の「常識」が引き剥がされる、そんな瞬間を私は体感したのかもしれない。

地上と上空を行き来する飛行機の旅は、「ミクロとマクロ」、「emic と etic」、「具体と抽象」、「遠心と求心」の間の絶えざる往還を意味しているのでしょう。地上にしながら「想像」の翼を大きく広げ羽ばたき、上空では地上から距離を取りつつ世界を俯瞰する。コミュニケーション学者とは、そんな「夢見る旅人」なのかもしれません。

まもなく北九州空港に降り立ちます。明日からはまた授業。空の旅で描いた「夢」を語ることにします。

## 2017年度 第1回理事会報告

2017年12月9日(土)13:00から2017年度第1回理事会が東京駅前サピアタワー9階の「関西大学東京センター」にて開催された。20名の理事(委任状2名を含む)の出席により理事会は成立した。

### I. 会長挨拶

6月の年次大会は無事に終わりお礼を申し上げます。次回の北海道の年次大会でのご協力もお願いしたい。近年大学使用の有料化も増え、大会会場確保が難しくなっている。節約の観点からも、今後の理事の構成や学会の体制を考えていきたい。

### II. 報告事項

#### 【1】第47回年次大会報告(野中)

第47回大会が無事終了したことが報告された。会長より、当日の発表者の欠席に関して極力避けてほしいことと、やむを得ず欠席する場合、事前連絡の徹底をお願いしたいというコメントがあった。

#### 【2】各局および担当理事報告

##### 1. 事務局

###### (1) 入退会者および会費納入報告(菅家)

12月現在の会員全体数の報告が以下のようにされた。また、新規入退会者の確認が行われた。

(一般会員:365名 学生会員:15名 準会員:2名 合計:382名)

###### (2) 年次大会の会計報告(松島)

年次大会の会計報告があった。会計報告を参照。

###### (3) 会計年度について(高永)

今年度は短くなり3月までとなることが確認された。

###### (4) 支部助成金について(松島)

支部の助成金と支部大会の助成金の申請は、できるだけまとめてはやめをお願いしたい。

###### (5) 業務委託について(高永)

新事務局への委託は年間を通して調整を行いながらスムーズに進んでいる。

###### (6) バックナンバー等の整理状況(高永)

旧事務局に預けていたバックナンバーの処分と新事務局への移管が行われている。また、旧事務局のメールアドレスが廃止されることになる。

##### 2. 学術局

###### (1) ジャーナル関連(坂井)

ジャーナルに関し以下の報告がされた。

- ・日本コミュニケーション研究 第46巻 第1号発行(2017年11月30日)
- ・日本コミュニケーション研究 第46巻 第2号審査状況(2018年5月31日発行予定)、投稿論文9本受理。  
査読結果(掲載可3本、掲載不可6本)
- ・日本コミュニケーション研究 第47巻 第1号 投稿論文 募集締め切り(2018年1月31日)
- ・日本コミュニケーション研究執筆要領の修正

## (2) J-Stage 関連(坂井)

J-Stage に関し以下の報告がされた。

- ・前身誌2誌の記事データのJ-Stageへの登載
- ・J-Stageへの今後の「日本コミュニケーション研究」論文データ登載業務担当の変更
- ・J-Stage新画面での「学会誌の紹介文」の公開

## (3) 学会賞関連(高井)

学会賞応募に関するお知らせをニュースレターで行う旨が報告された。

## (4) 年次大会関連 (野中、長谷川)

年次大会に関して以下の報告がされた。

1. 次回第48回大会は2018年6月9日、10日に北海道札幌市（札幌医学技術福祉歯科専門学校）にて開催される。
2. プログラム冊子サイズがA4からB5に変更予定。

## 3. 広報局

## (1) ニュースレター116号の発行と117号の予定

ニュースレター116号（10月号）を発行した。次号117号（2月号）は、来年2月初旬発行予定で計画中。

## (2) 他学会への年次大会送付について

昨年度は年次大会案内を以下の学会事務局へ送付した。今年度も同様に送付する予定である。送付不要あるいは新たに追加した方がよい学会があれば、お知らせいただきたい。

異文化間教育学会、多文化関係学会、日本マス・コミュニケーション学会、表象文化論学会、国際ビジネスコミュニケーション学会、映画英語教育学会、外国語教育メディア学会、大学英語教育学会、日本ディベート協会、SIETAR JAPAN（異文化コミュニケーション学会）、日本語用論学会、以上。

## (3) 第48回年次大会広告、展示ブース募集について

- ・2018年1月中旬に広告・展示ブース設置依頼文を用意し、前年度同様に、広報局のリストと各理事からの新たな紹介先企業にe-mailにて送付する。第47回大会では、広告に5社、展示ブースに3社から協力をいただいたが、本年度も各理事にぜひご紹介をお願いしたい。
- ・広告原稿の取り寄せと、プログラム担当及び印刷所への送付は3月末までの予定。
- ・会員組織以外にも、会員でない企業への依頼および参加もお願いする予定である。

## (4) Web 関連

- ・Web版（PDF）のニュースレター(116号)をHPに掲載した。
- ・第48回年次大会発表論文募集要項、『日本コミュニケーション研究』、第47巻1号の論文投稿案内、NHK番組アーカイブス学術利用トライアル、など、必要に応じ随時HPを更新した。

## 【3】各支部報告

各支部長から報告がされた。

## 【4】各理事からの報告

## 1. 企画担当（吉武）

- ・第47回年次大会では異文化コミュニケーション企画パネルをおこなった。次回は異文化コミュニケーションに加え、レトリック、コミュニケーション教育といった研究会との合同パネルの企画を構想中である。また、学会からの発信についてSNS等メディア媒体の利用の可能性を検討している。英語による発信も進めていきたい。
- ・関連して、学会50周年企画と、Web刷新について意見が交換され、それぞれ議論を進めていくこととなった。

## 2. 海外渉外担当 (宮原)

ICA の affiliate になる可能性は検討中であるが、それとは別に研究の海外への発信を進めたい。NCA の JUCA への研究 submission を進める広報をお願いしたい。また、東アジアにおける学会連携の可能性も考えられる。

## III. 審議事項

## 【1】第48回年次大会関係

審議事項なし

## 【2】各局関係

## 1. 事務局

- (1) 会費のクレジットカード支払いについて  
会費支払いにクレジットカードを利用する場合、利用手数料は会員負担とする方向で継続審議とした。
- (2) 「海外渉外担当理事」の名称変更について  
「渉外担当理事」と名称を変更することとした。
- (3) 会員管理の形態について  
支部ごとの会員管理方法は従来通り、マイページ機能の追加については継続審議となる。
- (4) 人文社会科学系学協会男女共同参画推進連絡会 (GEAHSS 略称ギース) への加入について  
審議の結果今回の加入は見送りとなる。

## 2. 学術局

## (1) J-stage 関連

- ・「J-Stage 掲載業者変更届」の「責任者氏名」は現状のまま編集委員長名とすることが決まった。
- ・J-Stage 新画面での掲載情報について適宜更新が必要なものに関しては今後検討していく。JCA へのリンクを貼る等については掲載を始めていくことが決まった。

## (2) ジャーナルの電子化について

ジャーナルの完全電子化の可能性について審議され、今後パブリックコメントなどを求めたうえで、総会に諮る方向性が決まる。

## (3) 年次大会発表原稿の提出について

審議の結果、年次大会発表の際の発表原稿提出は今後必要なくなることになった。

## 2. 広報局

## (1) 広告費の改正について

大会プログラム冊子のサイズ変更にもない、広告費の改定が提案され審議の結果承認された。

## 【3】その他

## 1. 今後の年次大会会場について

2019年度年次大会の会場候補として関東を会場使用料と予算などの点から検討し、継続審議となった。

## 2. 次期体制について

理事会の構成について検討され、今後の体制に考慮されることとなった。

## 3. 次回理事会開催日時・会場

3月24日(土)13:00~17:00 関西大学東京センター (丸の内サピアタワー9F) にて開催予定

## 第47回年次大会 会計報告

〈収入の部〉		〈支出の部〉	
大会参加費	317,500	国際文献社委託関連	
懇親会参加費	145,000	1. プログラム・プロシーディングス作成費 (550部)	233,047
弁当代	47,000	2. ポスター製作費 (1,000枚)	67,000
寄贈図書売上	0	3. 事前参加システム構築費	80,000
ジャーナル売上	0	4. 事前参加システム利用料	50,000
広告費	50,000	5. オンライン決済接続費	20,000
展示費	15,000	6. 参加者リスト作成費	5,000
助成金 (京都ノートルダム女子大学より)	50,000	7. 参加証兼領収書作成費	21,850
学会補助	626,052	8. クレジット・コンビニ利用手数料	20,450
		9. 清算処理費	2,500
		10. 消費税	39,987
		<b>小計</b>	<b>539,834</b>
		講師謝礼	50,000
		講師交通費	8,420
		懇親会費	225,000
		役員弁当代	28,000
		弁当代	50,000
		茶菓代	5,688
		人件費	102,000
		総会ハガキ印刷費 (学会支援機構)	12,012
		通信費 (総会ハガキ・プログラム郵送費含)	137,298
		京都ノートルダム女子大学施設使用料	92,300
<b>合計</b>	<b>1,250,552</b>	<b>合計</b>	<b>1,250,552</b>

## 備考

- ・ 2018年度より会計年度が4月1日から3月31日までとなる
- ・ 京都ノートルダム女子大学より50,000円の助成金があった
- ・ 業務委託の移行時期と大会準備期間が重なったため、今年度の年次大会では学会支援機構に担当していただいた業務もあるが、来年度からは国際文献社に全て委託される。

## 学術局からのお知らせ

### 第48回年次大会 発表論文・企画セッション募集

日本コミュニケーション学会は2018年6月9日(土)・10日(日)に、札幌医学技術福祉歯科専門学校にて第48回年次大会の開催を予定しています。来年度のテーマは「コミュニケーションとコミュニティ」です。このテーマに関連した多数の企画を準備すると同時に、会員の皆様からの研究発表を募集いたします。

また、研究発表だけでなく、会員の相互の研究関心と教育実践の質的な向上を共有する「企画セッション」を募集します。形式は、パネルディスカッション、統一テーマの論文発表、ワークショップなど、自由な発想のもと、90分間のセッションを使って、学会のみならず社会に有効な企画をぜひお寄せください。

応募にあたりプログラムに掲載される要旨と大会プロシーディングス出版用の要旨の2種類をご提出ください。

- ①プログラム掲載用要旨：  
和文 800 字以内  
英文 300 語以内
- ②プロシーディングス掲載用要旨：和文 3000 字以内（脚注含む）  
英文 1000 語以内（脚注含む）

いずれも必ず A4 版 2 枚にすべてを収めてください。なお、パネルなどの企画セッションに応募する場合、パネル全体としてそのセッションの概要を 800 字（プログラム用）と 3000 字（プロシーディングス用）の要旨に収めてください。詳しくは JCA ホームページのプロシーディングス投稿規定を参照ください。

応募の際は、メールの題目/subjectに「JCA submission: 氏名」と必ず明記し、担当理事の野中アンディ宛 ([andyonaka@\[@を入れる\]commskill.co.jp](mailto:andyonaka@[@を入れる]commskill.co.jp)) まで電子メールでお送りください。

応募締め切りは **2018年2月20日(火)** となりますので、期日には十分ご注意ください。

大会の個人研究発表では第一筆者（及び発表を行う当事者）が JCA の会員であることが規定によって定められています。応募時まで JCA の会員登録をお済ませいただき、氏名の下に会員番号を表記してください。また年会費の未納のため、近年会員資格の資格が発生していますので合わせてご注意ください。

発表申し込みに関しましては学会ホームページ (<http://www.caj1971.com/>) でもご覧いただけます。活気に満ちた大会になるよう、積極的に発表申し込みをいただきたく、ここにお願い申し上げます。



## Call for Papers for the 48th JCA Annual Convention

The Japan Communication Association is planning to hold its 48th Annual Convention on Saturday, June 9th and Sunday, June 10th, 2018, at Sapporo Medial Technology, Welfare, and Dentistry Professional Training College. The theme of the Convention will be “Communication and Community (tentative).” JCA will be inviting proposals for individual or panel presentations for competitive research papers dealing with any subjects of communication studies.

Additionally, we would like to particularly invite a unique and quality session that contributes to the JCA members and activates our membership activities. The format of this theme session may vary depending on the session’s objectives, such as a thematically organized paper session, a panel symposium, or a workshop. We appreciate your proposal that facilitates research activities and teaching practices as well as encourages information sharing beneficial for the JCA members.

Those wishing to propose a paper presentation or a panel discussion should send an e-mail with a word file of the abstract as an attachment to Andy Nonaka, Deputy Director of Academic Affairs, at [andyonaka@\[commskill.co.jp\]](mailto:andyonaka@[commskill.co.jp]) by Tuesday, February 20th, 2018.

We will publish conference proceedings with abstracts. Two forms of abstracts should be submitted:

- (1) For the convention program: 300 words or less in English or 800 characters or less in Japanese
- (2) For the proceedings: Maximum of 1000 words in English (including foot/endnotes) or 3000 characters in Japanese (including foot/endnotes)

The total volume of abstracts must be limited to 2 pages printed on A4- size paper. Refer to the Submission Guidelines for JCA proceedings, and precisely follow the guidelines. Those who propose a panel or a theme session should submit a session overview of 2 pages maximum; abstracts of individual presenters are unnecessary. Also, at your submission, please specifically type “JCA submission:[name]” on the subject of your mail. The first author of a paper as well as a presenter in the Convention is strictly limited in the JCA members. If these responsible persons don’t have the JCA membership, please join the JCA before submission and indicate the membership number on your paper. We also recommend that you clarify your current status of the membership because it is often lost by not paying the annual fee. Those of you interested in submitting a proposal, please refer to the JCA homepage (<http://www.caj1971.com/>) for the submission requirements. We look forward to seeing you in Hokkaido!



## 学会誌に関するお知らせ

昨年の11月に『日本コミュニケーション研究』第46巻第1号が無事発行されました。現在は、第46巻第2号の準備が進められ5月末には発行予定となっています。また、第47巻第1号の締め切りは1月末に終了しました。こちらは11月末の発行を目指し、査読作業の準備が現在行われています。

今現在は、第47巻2号（2019年5月末発行予定）への投稿論文を募集中です。締め切りは5か月後の7月末日です。まだ十分時間はありますので是非皆様の研究論文をご投稿ください。投稿方法は、ワード等で作成されたファイルを指定メールアドレスに添付して送付してください。送付の際には、(1)「論文」、(2)「シノプシス」、(3)「ファイル作成に使用した機種を加えた著者情報」、以上3つのファイルを添付してください。執筆・投稿の詳細は、公式ホームページにある「研究論文集投稿規程」・「学会誌執筆要項」を参照してください。

送付の際、ジャーナル専用アドレスに加え、編集委員長のメールアドレスにも「CC:」にて送付してください。メールアドレスは以下の通りです。

**To: [journal@\[caj1971.com\]](mailto:journal@[caj1971.com])**  
**CC: [jisakai@\[ed.tokyo-fukushi.ac.jp\]](mailto:jisakai@[ed.tokyo-fukushi.ac.jp])**

上述したメール投稿で受領の返信がない等の不具合、また、ジャーナル投稿に関するその他のお問い合わせは、ジャーナル担当の坂井 ([jisakai@\[ed.tokyo-fukushi.ac.jp\]](mailto:jisakai@[ed.tokyo-fukushi.ac.jp])) までご連絡下さい。迅速に対応いたします。

皆さまがご自身の研究論文を学会誌に投稿する際、どのような点に気を付け論文作成をされるでしょうか。各学会で査読基準は異なると思いますが、本学会では投稿された研究論文に対し概ね、妥当性、体裁、研究方法（データ収集方法等含む）の適切性・倫理性、分析の緻密性・独創性、そして表現の明確性・厳密性の5点の規準で査読が行われます。今回は紙面の都合で一番目の妥当性についてのみ説明します。妥当性の規準では、投稿論文がコミュニケーション研究・教育の発展にどのような形でどれだけ寄与するかが判断されます。研究論文のテーマや研究目的は様々ですが、投稿論文の研究内容がコミュニケーション研究・教育領域に深く関連しているだけでなく、先行研究に裏打ちされつつ新規性を提供している必要があります。皆さまの研究は、コミュニケーション研究の歴史の一部であるとともに、コミュニケーション研究の未来を切り開く重要な役割があります。

「日本コミュニケーション研究」の行末は皆様方のご投稿が鍵を担っています。皆様の研究成果、是非ご投稿ください。一読者として、またジャーナル担当としても皆様方のご投稿、心よりお待ちしております。

(副学術局長:ジャーナル担当 坂井二郎)

## 学術局セッション報告

第47回年次大会1日目午前中に学術局セッションとして「コミュニケーション学の未来について語り合う—U-40 研究者からの提言—」が開催されました。学術局からは野中昭彦先生が司会兼コーディネイターを務め、話題提供者として新進気鋭の研究者5名(石橋嘉一先生、今井達也先生、田島慎朗先生、松島綾先生、脇忠幸先生)に登壇していただき、更にレスポンドを五島幸一会長が務めるといった豪華な布陣となりました。当日は、各自の研究領域や主要研究の紹介を含む自己紹介を行っていただいた後、なぜコミュニケーション研究の道に進んだのかについても語っていただきました。さらに、日本におけるコミュニケーション研究の現状と展望をどう考えるかについても、それぞれのお立場から語っていただきました。研究領域や研究手法も異なる方々に話題提供をしていただきましたので、議論も大変白熱し、それがかえって現在のコミュニケーション学を体現していたと思います。他の学問領域との関連でコミュニケーション学はなにが貢献できるのか、またコミュニケーション研究の多様な分野での共通性はなにかといったことが多くの先生から語られていたところが特に印象に残りました。学会内ならびに他の近接学問領域の学会との議論というウチ・ソトでの研究の活性化に関する提言など、アラフォーの先生方からの真摯かつ率直な意見から、学会の未来をみんなで創っていこうとする気概も感じられ、聴衆の研究者の方々も大きな刺激を受けたセッションとなったことと思います。

## 学会賞応募に関するお知らせ

当学会では、学会賞審査対象の著書を常時募集しております。今年度は、2017年1月1日から12月31日に出版された本学会員によるオリジナルの著作が対象となります。共著・分担執筆による著作については、すべての執筆者が本学会員である必要はありませんが、著作への本学会員の貢献が顕著と認められるものについて審査の対象とします。応募資格に関して不明な点がある場合は、事前に下記問い合わせ先にお問い合わせください。締め切りは、2018年2月15日（必着）となります。応募される会員は、下記募集要領に従い応募してください。なお 審査結果の報告は、年次大会の授賞式での発表に代えさせていただきます。

応募資格： 正会員（自薦、他薦は問いません）

応募方法： 希望者は審査用著書3冊とともに、1000字程度の著作概略および著者の名前・連絡先を明記したものを添えて応募してください（尚、著書は返却いたしませんのでご了承ください）。

応募数量： 会員一人一冊まで推薦可

問い合わせ先および審査書類一式提出先：

学術局長 高井次郎

住所：464-8604 名古屋市千種区不老町 名古屋大学教育学部

電話&ファックス：052-789-2653

E-mail: [jtakai\[@を入れる\]cc.nagoya-u.ac.jp](mailto:jtakai[@を入れる]cc.nagoya-u.ac.jp)

## 事務局報告

### 事務局からのご報告とお願い

#### 1. 会計年度の変更

昨年の総会で決まりましたように、2018年度から会計年度が変更になります。来年度から会計年度は「4月1日～翌年3月31日」となります。ただし、2017年度は会計年度が「2017年6月1日～2018年3月31日」となっております。ご注意ください。

#### 2. 住所等変更届のお願い

住所や所属が変更になった場合には、速やかに日本コミュニケーション学会事務局（以下「学会事務局」とする）までメール、郵送、ファックスのいずれかの方法でご連絡ください。年会費の振込用紙での変更届けはできませんのでご了承ください。なお、今年度から学会事務局の連絡先が変更になりましたので、届けを出す際には学会のHPでご確認ください。

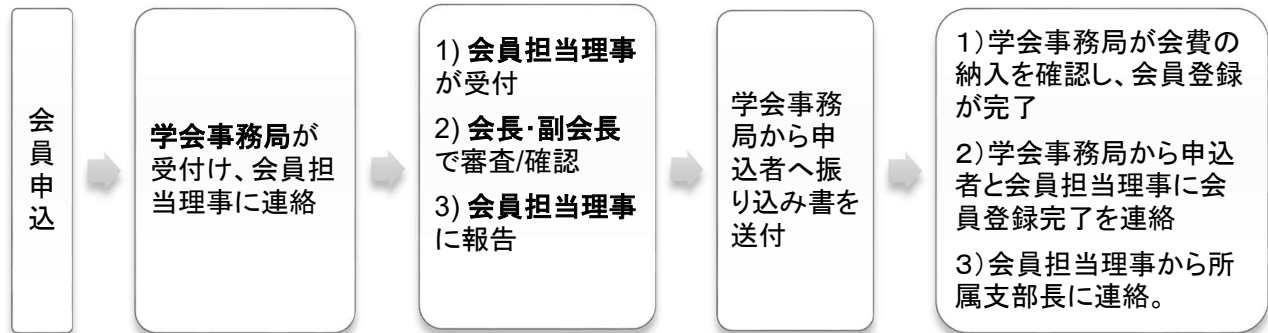
#### 3. ジャーナルバックナンバー、記念図書の購入申込みと閲覧・複写申込み

これまで発行されたジャーナルバックナンバーなど学会発刊物を購入されたい場合は、学会事務局にお問い合わせください。また、科学技術情報発信・流通総合システムJ-STAGE (<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/-char/ja/>) あるいは国立情報学研究所の論文情報ナビゲータCiNii (<http://ci.nii.ac.jp/>) にも論文が掲載されており、閲覧・印刷することができますので、こちらも是非ご利用ください。同サービスを利用せずに複写をご希望の場合は、学会事務局までお問い合わせください。

#### 4. 新規会員の手続き

JCAでは新しい会員を随時受け付けています。次頁のような流れで、新規会員の手続きを行います。ご不明な点がございましたら、学会事務局までご連絡ください。

皆様のご協力をお願い申し上げます。



## 広報局便り

### 広報局からのお知らせ

- ① ジャーナル投稿専用アドレスの運用について  
 学術局と連携し、ジャーナル専用のメールアドレス ([journal\[@を入れる\]caj1971.com](mailto:journal[@を入れる]caj1971.com)) で次号投稿の受付を行います。広報局では他学会の情報や教員公募情報なども積極的にアップしていくことにしております。現在も、いくつかの研究学会の年次大会案内や教員公募などの情報をアップしています。ぜひ、ご活用ください。
- ② 会員の皆様からも、国内だけでなく、海外の学会を含めて関連する講演会や研究会があれば情報として広報局までご一報ください。ホームページにアップしたいと思います。
- ③ ホームページ (<http://www.caj1971.com>) は、適宜更新しております。ご意見やご質問を頂ければ幸甚です。
- ④ 広報局では、JCA ニュースレターへのご寄稿を募集しております。次頁の要領をご覧ください、奮ってご寄稿ください。

## JCA ニュースレターへのご寄稿のお願い

日本コミュニケーション学会では、ニュースレターへの会員の皆様のご寄稿を募集しております。以下の要領で奮ってご寄稿ください。宛先：田島慎朗 (tajima-n[@を入れる]kanda.kuis.ac.jp)

### ① 著書紹介

会員の皆様の著書を紹介するコーナーです。自薦、他薦を問わず、会員の皆様の著書をご紹介ください。和文で 250～500 字程度の原稿を受け付けております。

### ② コラム：コミュニケーション教育

コミュニケーション教育に関する実践報告、事例紹介、展望、論考、その他のエッセイを受け付けています。和文で 1000～1500 字程度の原稿を受け付けております。

### ③ 書評

コミュニケーションおよび関連領域の著書に関する書評を受け付けております。和文で 1000～1500 字程度の原稿を受け付けております。

### ④ NL 表紙の写真

ニュースレターの表紙を飾る写真を募集しております。本学会の NL 表紙に相応しい写真がございましたら是非お寄せください。(写真は、会員の皆様ご自身でお撮りになったもの、または著作権をお持ちの写真に限ります。また、写真内容が法令に触れないようご配慮ください。)



# 支部ニュース

## 北海道支部

(運営委員 佐々木智之)

第26回(2017年度)支部研究大会を、2017年11月25日(土)天使大学にて開催しました。非会員を含め、20名の方に参加していただきました。

最初の「私の授業実践」は水島梨紗先生(札幌学院大学)の「授業で異文化コミュニケーションの魅力を伝えるには」と北間砂織先生(藤女子大学)の「英語教育への通訳訓練の応用」2件でした。実践例は授業をイメージしやすく、示唆に富む要素が豊富で、それは発表直後の質問の多さ、コメントの積極性に反映されていました。

研究発表は、板谷初子先生(北海道武蔵女子短期大学)の「通訳におけるlengtheningとshortening～政治通訳とスポーツ通訳の比較考察」と中村香恵子先生(北海道科学大学)の「SCATを用いた混合研究方法による教師認知研究の試み」でした。両先生とも固有性が高く、専門性の深さ、経験の豊富さを感じることができました。

続くワークショップは伊藤明美先生(藤女子大学)による「異文化コミュニケーショントレーニング～Outside Expert【改変版】を通して学ぶ多文化共生のための基礎的態度～」です。参加者全員が学生の立場で活動しました。すぐにでも自分の講義で試行したくなるワークでした。



最後は石橋嘉一先生(青森中央学院大学)を東北支部よりお招きして演題「授業『外』における英語学習と学習ストラテジー～コミュニケーション教育と英語教育の観点から学習支援を考える～」でご講演をいただきました。ハンドアウトを見直してみると、1枚1枚のスライド

に今日的課題、調査に基づく学術性の高さ、学習者に根ざした研究の重さが込められています。

始まりから終わりまで、発表者と聞き手に熱心なメッセージの授受があり有意義な時間となりました。

2017年度支部研究会ですが、昨年度に引き続き今年度も大学英语教育学会(JACET)北海道支部と北海道英語教育学会(HELES)と合同で2018年3月11日(日)午後札幌大谷大学セレスタ札幌キャンパス(地下鉄東豊線東区役所前駅のセレスタ札幌2階)で開催予定となっています。お時間のある方は是非ご参加ください。

お問い合わせ先: JCA北海道支部事務局 目時光紀

[metoki0702\[at\]gmail.com](mailto:metoki0702[at]gmail.com)

## 東北支部

(支部長 川内 規会)

2017年10月14日(土)に「第18回東北支部研究大会」が青森市で開催されました。

【研究発表4件】

- ・「語学・コミュニケーション・対人スキル=人的資本・グローバル人材」? 小林葉子(岩手大学)
- ・「高齢化社会・ストレス社会におけるヨガの可能性」宮曾根美香(東北工業大学)
- ・「障がい者アート:「芸術」として、「支援」として、そして「コミュニケーション」として」関久美子(新潟青陵大学短期大学)
- ・「ドラマや映画における介護の表象:介護の魅力発信の限界と可能性」五十嵐紀子(新潟医療福祉大学)





## 【パネルディスカッション】

昨年度に引き続き「健康とコミュニケーション」をテーマに、健康観を問い直しました。

パネリストに、青森県立保健大学栄養学科の佐藤伸先生と清水亮先生をお招きし、司会兼パネリストとして川内規会東北支部長の進行のもと、健康教育の担い手としてどのようなゴールを目指して取り組みがなされているのか、専門的な内容をわかりやすく教えていただきました。青森県内のヘルスリテラシー向上への取り組みの紹介とともに、栄養の教育者の立場から、また、管理栄養士の立場からそれぞれご意見をいただきながら、健康観と地域に根差した食習慣の形成について、参加者と一緒に考えました。



## 東北支部定例研究会開催のご案内

2018年3月3日(土)13:00より、仙台市(東北工業大学一番町ロビー)にて「2017年度東北支部定例研究会」を開催します。研究発表および教育実践報告などのご発表を希望される方は2018年2月10日(土)までに、「氏名、所属、連絡先、タイトル、要旨(200~300字程度)」を川内 [k\_kawauchi[ @を入れる ]auhw.ac.jp] まで、メールでお送りください。



## 中部支部



(支部長 藤巻 光浩)

12月16日(土)に、愛知淑徳大学星が丘キャンパスにおいて、中部支部大会を行いました。詳細な内容は、基調講演者ならびに登壇者たちによる記事も含め、3月末発行のニュースレターで読むことができますが、まずここに報告いたします。

今年度の基調講演では、貴戸理恵先生(関西学院大学)を講演者にお迎えしました。「ダイバーシティと対話—生きづらさを活かす—当事者研究の取り組みから—」をテーマに、現代社会を「生きづらさ」という視点から見つめ直し、個人の苦しみを自己責任のように個人に還元してしまうのではなく、社会の在り方を常に問い直す必要性をお話し頂きました。また、続くセッションでは貴戸先生がコーディネーターとして携わっていらっしゃる「生きづらさからの当事者研究会(づら研)」から、野田彩花さんが登壇し、ご自身の体験を踏まえたお話しをして下さいました。基調講演を含めた午後のセッションには近隣大学の大学生も参加し、フロアとの質疑応答では研究者・学生の垣根を超えた対話の場となりました。



それから中部支部恒例の会員による著書の合評会を開催しました。今年度は、河合優子先生(立教大学)が編者となられた『交錯する多文化社会—異文化コミュニケーションを捉え直す—』(ナカニシヤ出版)を取り上げました。河合先生が執筆された序章「多文化社会と異文化コミュニケーションを捉える視点としての『交錯』」と第四章「日常の実践としてのナショナリズムと人種主義の交錯—東アジア系市民の経験から—」には、松島綾先生(立命館大学)が、渡会環先生(愛知県立大学)が執筆された第三章「メイクアップされるブラジル人女性の生活世界」に対しては、社会学者でラテンアメリカ研究が専門の山脇千賀子先生(文教大学)が、それぞれ応答者として所感と質問を提示され、執筆者がその質問に答え、その後フロアを交えた質疑応答が行われました。異文化やメディア研究などから援用され提案された『交錯』という概念を用いることで、ともすれば人種や階層など目立った属性に基づき本質化してしまいがちな人物や出来事の意味づけを、多層的な観点からしなやかに見ていく観点と実

践が提案・報告されました。人種や階層などのカテゴリーの問い直しを実践しつつ、目の前の固有の人物と出来事に対峙する重要性が実感できたセッションでした。

その他にも、支部会員による科研の成果報告もあり、盛りだくさんの支部大会となりました。ご来場くださったみなさま、この場をお借りして御礼を申し上げます。もちろん、懇親会もみなさんと楽しく過ごすことができましたよ。

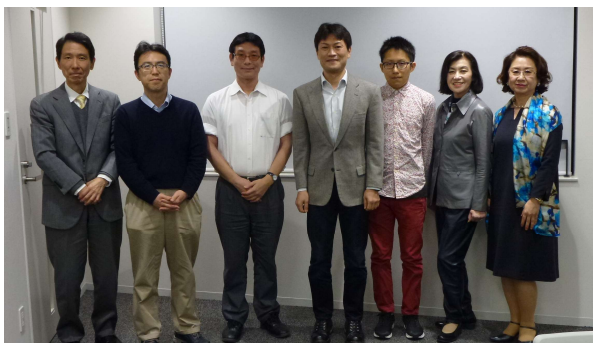
## 関西支部

(支部長 守崎 誠一)

2017年11月19日(土)に、関西大学梅田キャンパスにて、2017年度の関西支部秋季研究会を開催いたしました。参加者は7名(うち非会員が1名)、懇親会への参加も6名ありました。

最初に、関西支部長の守崎誠一が挨拶したのち、学術講演者の川島隆氏(京都大学文学部准教授)をご紹介し、『ハイジ』像のメディアの変遷をテーマにご講演をしていただきました。講演では、スイスのドイツ語圏の小説家ヨハンナ・シュピーリが1880年と翌年に刊行した小説二部作『ハイジ』が、国や地域によって、いかに統一性を欠いた多種多様な「ハイジ」像を生み出してきたのか。どのようなニーズのもとに、どのような「ハイジ」の像が生み出されて流通してきたのかを、特に「ジェンダー」と「国民性」をキーワードに論じていただきました。講演後には、約1時間の質疑応答の時間が設けられ、講演者との活発な質疑がおこなわれました。

研究会の終了後、会場近くのイタリアンレストランで懇親会が開かれ、6名での楽しい交流会となりました。



## 中国・四国支部

(支部長 脇 忠幸)

中国四国支部では、12月3日(日)に福山大学宮地茂記念館にて第20回支部大会を開催いたしました。今回もここ数年引き継いできた「コミュニケーション学と教育」をテーマとしました。プログラムの概要は以下の通りです。

学術発表①Rudolf Reinelt (愛媛大学) Communication, determination and the German noun.

基調講演 野中 アンディ 先生(株式会社コムスキル代表)「社会人コミュニケーションが気づかせてくれること」

学術発表②脇 忠幸(福山大学)「〈コミュカ-コミュ障〉の言説分析」

学術発表③谷口 直隆(広島修道大学)「コミュニケーション教育における教育内容としての自己認識～国語教育における実践例を手掛かりに～」

今回は、本学会理事でもある野中アンディ先生(株式会社コムスキル代表)に、成人教育についての貴重な講演をいただきました。企業(人)が「コミュニケーション」に何を求めているのか、大学教育(for 学生)との比較をしながら議論することで、非常に濃く深い学びが得られました。



懇親会では、野中先生、獺祭、店主(!)が三位一体となり笑顔の絶えない時間を過ごしました。店内で撮った集合写真にはなぜか店主の姿も... (あまりに面白いので載せません)。今後も垣根の一切ない自由な雰囲気を大事にしていきたいと思っております。

次回(第21回)から全体テーマを一新する予定です。支部としての“地域性”を改めて考える意味でも、「地域を/で研究するということ」といったテーマを検討中です。なお、次回も今年度同様、11月末～12月上旬に福山大学宮地茂記念館で開催予定です。

## 九州支部

(支部長 池田 理知子)

2017年9月23日(土)、第24回支部大会を純心女子高等学校江角記念館(長崎市)で開催しました。畠山均大会実行委員長のもと、「記憶の継承：コミュニケーション学の視点から」をテーマに行われた大会は、参加者30名、研究発表10本、パネルディスカッション3本という非常に活気のあるものとなりました。特にメインのイベントとして大会テーマと同じタイトルで行われたパネルは、戦争や原爆の問題をそれぞれの立場から現場で伝えている3名をお招きし、記憶の継承についての議論を深めていくという非常に内容の濃いものでした。プロフィールを簡単に紹介すると、新海智広先生は純心女子高校の教員および岡まさはる記念長崎平和資料館の理事として、特に朝鮮人・中国人の強制連行や被爆の実態調査に長年関わってこられた方です。田代雅美さんは元小学校教員で、現在は「平和案内人」として原爆資料館の案内をされています。そして長崎純心大学英语情報学科1年生の松野世菜さんは、被爆者の体験を語り継ぐ活動に積極的に参加している方で、彼女の活躍はメディアなどでよく取り上げられています。当日も長崎新聞の記者が取材にきており、翌日は大会のパネル報告とともに彼女にスポットをあてた記事が紙面を飾りました。学会での活動が社会における諸問題とどのように接合していくのかを課題として掲げている九州支部としては、メディアが支部大会のことを報道してくれることはそのひとつの手段になると考えております。なお、支部大会の詳しい報告は、ホームページにて九州支部のニューズレターをご覧ください。

### 研究発表の様様



### パネルディスカッション

「記憶の継承：コミュニケーション学の視点から」



その支部ニューズレター(第30号)ですが、2017年12月に発行しました。支部大会やその他の活動報告、学会会員からのメッセージなど、多彩な記事が掲載されていますので、是非ご覧ください。

最後に、支部紀要『九州コミュニケーション研究』(KYUSHU COMMUNICATION STUDIES)第15号が予定通り10月に発行されました。支部のホームページにアップされていますので、ご一読ください。原稿締め切りは、毎年1月末です。九州支部の会員以外の方でも投稿できますので、ご一考いただければと思います。

連絡先

〒162-0801

東京都新宿区山吹町 358-5 アカデミーセンター

日本コミュニケーション学会事務局

Fax: 03-3368-2822

[jcom-postf\[@を入れる\]bunken.co.jp](mailto:jcom-postf[@を入れる]bunken.co.jp)

<http://caj1971.com>



# NLの電子版への完全移行のお知らせと メールアドレス登録のお願い

日本コミュニケーション学会 広報局

日本コミュニケーション学会ニューズレターは永きにわたり紙媒体でお届けして参りましたが、107号より電子版に完全移行いたしました。当面はPDF版をHPに掲載する予定ですが、将来的には学会全体のメーリングリストを構築してのメールマガジンの配信も視野に入れ、さらに検討を続けていきます。

つきましては、会員の皆様には、本学会HP（学会支援機構データベース）にてメールアドレスの登録をお願い申し上げます（下記の方法をご覧ください。）今後、NLの配信を含めた学会の広報活動を効率化し、会員の皆様とより情報価値の高いコミュニケーションを取れますよう、ご協力をお願いいたします。

- ① 本学会 HP (<http://www.caj1971.com>) にアクセス
- ② 左側メニュー「会員各種手続き（Membership）」をクリック
- ③ ページ中頃の「各種変更手続き」の下「1.オンラインでWeb登録情報確認・変更、会費残高照会のページ」をクリック
- ④ 会員番号とパスワードを利用してログインし、メールアドレスを登録（変更）して下さい。

\* ご登録いただきましたメールアドレスは、学会（学生支援機構）が責任を持って管理し、**学会からのお知らせの配信（および、これに係るメーリングリストの構築）以外の目的では使用しません。**

- 会員番号は、学会からの郵送物の宛名ラベルの中に印字されています（10桁の番号）
- パスワードをお忘れの場合には、上記④の画面で、「パスワードの問い合わせ」をクリックして手続きを行って下さい。

## 編集後記

今年一月下旬、日本中が寒波に襲われ、私が住んでいる関東圏でも軒並み20センチを超える積雪がありました。自分も、雪がしんと降り積もる夜の小道を、20分ほど自転車を押しながら家路につきました。アメリカ留学から帰ってから久しく雪が肌に直接あたるのがなかったので、今回の雪（そして日本の多くの地方で振る雪）はふっくらとして粒が大きく、幻想的で暖かみすら感じさせるものだな、と思いながら、サピア・ウォーフの仮説に思いをはせました。

広報局 ニューズレター担当 田島慎朗